



山梨県

精神保健福祉センター

平成24年度

精神保健福祉センター一報

山梨県立精神保健福祉センター

目 次

目 次	- 1 -
精神保健福祉センターの概要	- 1 -
1 沿革	- 1 -
2 施設	- 1 -
3 職員構成	- 2 -
4 精神保健福祉センター事業	- 3 -
平成 24 年度 事業実績	- 6 -
Ⅰ 技術指導・技術援助	- 6 -
Ⅱ 人材育成	- 8 -
1 精神保健福祉担当者研修会	- 8 -
2 地域精神医療研究会	- 8 -
3 精神保健福祉事例検討会	- 9 -
4 精神障害者地域移行支援事業	- 9 -
Ⅲ 広報・普及	- 10 -
1 所報、パンフレット等印刷物の発行	- 10 -
2 広報視聴覚教材の提供・貸出（ビデオ・図書・パネル）	- 10 -
Ⅳ 調査研究	- 10 -
1 趣旨・内容	- 10 -
2 その他の研究内容－山梨県公衆衛生研究発表会で発表	- 10 -
Ⅴ 精神保健福祉相談	- 11 -
1 精神保健福祉相談件数	- 11 -
2 新規所内相談の内訳	- 11 -
Ⅵ 組織の育成	- 14 -
1 山梨県精神保健協会	- 14 -
2 山梨県精神障害者家族会連合会（しゃくなげ会）	- 16 -
3 山梨県精神保健福祉協力事業所の会	- 16 -
4 山梨県精神障害者地域活動支援事業所連絡会	- 16 -
5 虹の会（当事者の会）	- 17 -
6 絆扉の会	- 18 -
7 ボランティア活動への支援	- 18 -
8 精神障害当事者等リーダー会議	- 18 -
Ⅶ 社会参加促進事業	- 19 -
第 16 回 心の健康を考えるつどい	- 19 -
Ⅷ 特定相談指導事業	- 20 -
1 アルコール関連問題に関する相談指導等	- 20 -
2 思春期精神保健に関する相談指導等	- 20 -
3 薬物関連問題相談指導等	- 23 -
Ⅸ 心の健康づくり推進事業・自殺予防対策事業	- 25 -

1	自殺予防対策.....	- 25 -
2	「こころの電話相談室」ーストレスダイヤラー.....	- 27 -
X	子どもの虐待再発予防対策事業.....	-2-
1	親子のこころ相談室.....	- 28 -
XI	精神科救急情報センター窓口運営事業.....	-2-
1	概 要.....	- 29 -
2	精神科救急医療体制（精神科救急情報センター）.....	- 29 -
3	実施状況.....	- 30 -
XII	精神医療審査会.....	-3-
	精神医療審査会に関わる事務.....	- 33 -
XIII	自立支援医療費（精神通院医療）・精神障害者保健福祉手帳の判定事務.....	-3-

精神保健福祉センターの概要

1 沿革

昭和46年4月1日	山梨県立精神衛生センターの設置及び管理に関する条例の公布により、県庁構内西別館に設置される。
昭和46年12月1日	中央合同庁舎（甲府市中央一丁目）に移転
昭和59年12月6日	甲府保健所等合同庁舎（甲府市太田町）に移転
昭和63年3月28日	精神保健センターに改称
平成7年10月17日	精神保健福祉センターに改称
平成9年3月17日	現庁舎 山梨県福祉プラザ（甲府市北新一丁目）に移転

2 施設

1 場所

山梨県甲府市北新一丁目2-12（山梨県福祉プラザ内）

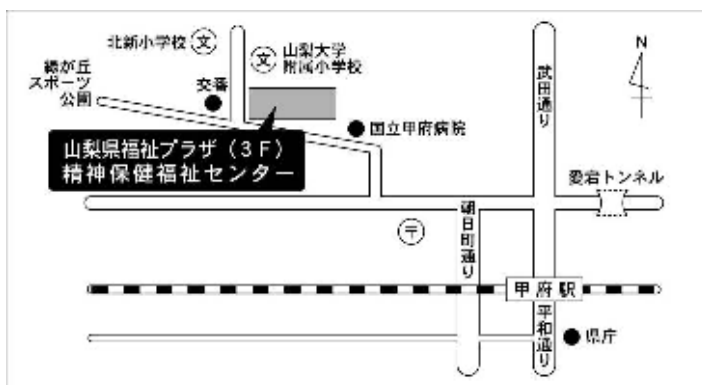
電話 055-254-8644～6

2 建物及び面積

鉄筋コンクリート造 4階建（山梨県福祉プラザ）の3階一部

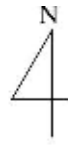
面積 366.9㎡

3 センター案内図

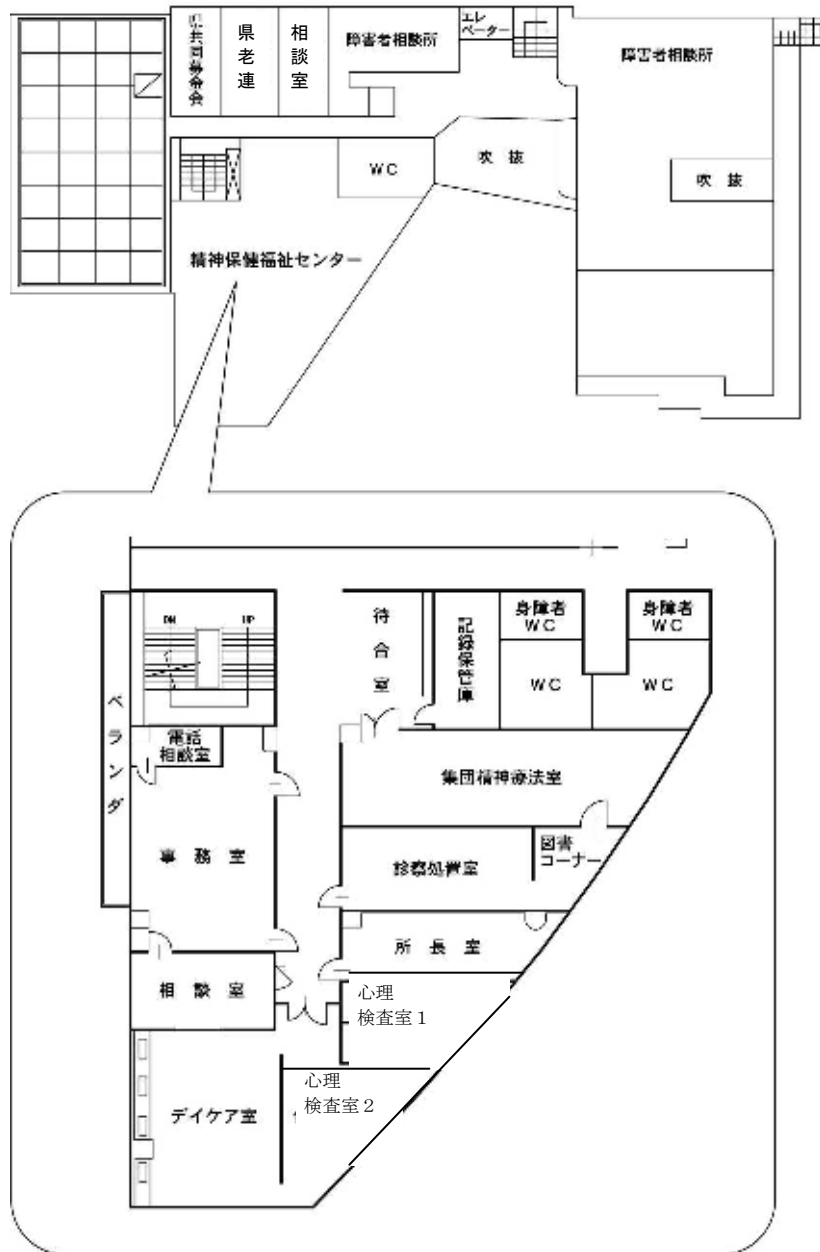


甲府駅北口から
山梨交通バス約10分
○上帯那行き
○花園病院行き
○塚原行き
県福祉プラザ前下車

山梨県立精神保健福祉センター平面図



福祉プラザ3階平面図



3 職員構成

職種	職種						計
	医師	一般事務	心理職	ソーシャルワーカー	保健師	電 話 相 談 員	
専任	1		2	3	2		8
臨時職員 非常勤嘱託		2				8	10
計	1	2	2	3	2	8	18

4 精神保健福祉センター事業

技術指導・技術援助

関係機関・組織・特定グループの行う事業及び関係者に対して専門的立場での技術指導・技術援助を行い、連携を図る。

人材育成

- 1 精神保健福祉担当者研修会（精神保健福祉相談員・保健師・精神保健福祉担当者等）
- 2 地域精神医療研究会（県精神保健協会と共催）
- 3 精神保健福祉事例検討会の開催
- 4 精神障害者地域移行支援事業に関する関係者の研修会（精神障害者地域移行支援事業）
- 5 （再掲）精神保健職親研修会
- 6 （再掲）特定相談指導事業に係る研修（アルコール、思春期に関する研究会等研修事業）
- 7 （再掲）心の健康づくり推進事業・自殺予防対策事業に係る研修
- 8 （再掲）精神科救急及びこころの電話相談に関する研修
- 9 （再掲）精神障害者地域活動支援事業所連絡会（地域活動支援事業所等の職員）

広報・普及

- 1 所報、パンフレット等印刷物の発行
- 2 広報視聴覚教材の提供、貸出（ビデオ、図書、パネル）

調査研究

- 1 ひきこもり支援に関する実態調査について
- 2 ひきこもり青年を対象としたアクティビティ・グループの有効性と今後の展開について

精神保健福祉相談

- 1 来所による相談（原則として予約制）、電話相談
- 2 （再掲）「こころの電話相談室」－
- 3 （再掲）薬物関連問題相談
- 4 （再掲）特定相談
・アルコール関連問題・思春期相談
- 5 （再掲）自殺防止電話相談

組織の育成

- 1 山梨県精神保健協会の育成・連携
- 2 精神障害者家族会の育成
- 3 山梨県精神保健福祉協力事業所の会（職親会）の育成・援助
- 4 山梨県精神障害者地域活動支援事業所連絡会の育成
- 5 虹の会（当事者の会）の育成
- 6 絆^{ほんび}の会（家族会）の育成
- 7 ボランティア活動への支援
- 8 精神障害当事者等リーダー会議への支援
- 9 （再掲）アルコール関係組織の育成・連携
- 10 （再掲）山梨県精神障害者社会復帰関係施設連合会の育成・連携

社会参加促進事業

心の健康を考えるつどい

特定相談指導事業

- 1 アルコール関連問題に関する相談指導
- 2 思春期精神保健福祉に関する相談指導
- 3 薬物関連問題相談指導

心の健康づくり推進事業・自殺予防対策事業

- 1 自殺予防対策事業
- 2 「こころの電話相談室」ーストレスダイヤルーの設置
- 3 「こころの健康相談統一ダイヤル」の運営

子どもの虐待再発予防対策事業

- 1 親子のこころ相談室
- 2 関係機関への技術支援及び関係者への研修

精神科救急情報センター窓口運営事業

- 1 救急科救急医療相談窓口
- 2 こころの健康相談窓口
- 3 精神科救急情報センター窓口担当職員の研修

精神医療審査会運営及び事務

精神医療審査会運営及び事務

精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療費判定

精神障害者保健福祉手帳・自立支援医療費（精神通院医療）の判定事務

特別事業（再掲）

特定相談指導事業

- 1 アルコール関連問題に関する相談指導
 - ・アルコール関連問題に関する特別相談窓口
 - ・広報普及（講演会等）、技術指導、調査研究等
- 2 思春期精神保健福祉に関する相談指導
 - ・思春期コンサルタント事業
 - ・思春期問題ワークショップ
 - ・ひきこもり家族教室・親の会
 - ・ひきこもり青年を対象にした集団援助活動（SST・アクティビティグループ）
 - ・思春期問題連絡会議
 - ・広報・普及（講演会等）、技術指導援助等
- 3 薬物関連問題相談事業
 - ・精神科医師による相談（予約制）
 - ・知識の普及啓発（講演会等）
 - ・薬物関連問題相談専門研修会

心の健康づくり事業・自殺予防対策事業

- 1 自殺予防対策事業
- 2 「こころの電話相談室」ーストレスダイヤラーの設置
- 3 「こころの健康相談統一ダイヤル」の運営

精神科救急情報センター窓口運営事業

- 1 精神科救急医療相談窓口
- 2 こころの健康相談窓口
- 3 精神科救急情報センター窓口担当職員の研修

平成24年度 事業実績

I 技術指導・技術援助

1 年間実績

技術指導・技術援助は、その対象とする関係機関、組織・特定グループの行う事業（企画・運営・実施等を含む）および関係者に対して、専門的立場から参加し指導及び援助（特に区別しない）を行うことであり、全国精神保健福祉センター所長会が定義づけている。

(平成24年度)

	技術指導・援助(延件数)										
	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	思春期	心の健康づくり	ひきこもり	自殺関連	犯罪被害	その他	計
保健所		1				1		24			26
市町村										1	1
福祉事務所											0
医療施設		15			6			3		3	27
介護老人保健施設											0
障害者支援施設		9									9
社会福祉施設		1									1
その他(含む学校)	1	22		1	10	7		15		14	70
実施件数	1	48	0	1	16	8	0	42	0	18	134

2 関係機関に出向いて実施した内容

県下の関係機関からの要請に応じて、実施した内容は、次の通りである。

1) 保健所

事業名	対象者	従事者	内容	参加者数
各保健所地域セーフティネット連絡会議(自殺予防対策事業)(計6回)	各関係者	保健師、精神保健福祉士	参画・助言等	延べ180人
いのちをつなぐ青木ヶ原ネットワーク会議(自殺予防対策事業)(会議・2回)	委員(各関係者)	精神保健福祉士	参画・助言等	延べ50人

2) 医療施設等

事業名	対象者	従事者	内容	参加者数
北病院思春期病棟・事例検討会(計6回)	北病院思春期病棟に係る職員	医師	事例検討会指導助言	60人
こころの発達総合支援センター症例検討会(計36回)	センター職員	医師	症例検討会指導助言	180人

3) その他

事業名	対象者	従事者	内容	参加者数
都留児童相談所関係者連絡会議	教員、関係者	医師	講義	60人
峡南地域人権講演会	県民	医師	講義	50人
甲府市中心の健康ボランティア養成講座	甲府市民	精神保健福祉士	講義	60人
相談従事者研修会	相談支援事業所職員	精神保健福祉士	講義	50人
栃木県自殺対策総合企画研修会	関係者	精神保健福祉士	講義	100人
長野県自殺未遂者支援研修会	関係者	精神保健福祉士	講義	80人
障害者職業生活相談員資格認定講習会	障害者職業生活相談員	精神保健福祉士	講義	60人
地域精神家族会総会	当事者、家族、精神福祉関係者	精神保健福祉士	講義	40人

3 協議会等委員

(1年間実績には含まれない)

協議会名	参加者	回数
山梨県精神保健福祉審議会	医師	2
いのちのセーフティネットワーク連絡協議会	医師	1
自殺再企図防止ケア事業推進支援プロジェクト会議	医師、保健師、精神保健福祉士	3
精神科救急事業連絡調整部会	医師	1
精神障害者訪問支援モデル推進事業評価検討委員会	医師	2
スクールソーシャルワーカー活用事業運営協議会	医師	1
「健やか山梨21」計画評価・次期計画策定委員会	医師、精神保健福祉士	1
子どもと親と教師のための教育相談事業連絡協議会	医師	1
子ども・若者支援地域協議会	心理職	1
子どもの心の問題に対する支援・医療等に係わる検討会	医師	1
精神病院実地指導	医師	6
山梨県医療観察制度連絡協議会	医師、精神保健福祉士	1
精神障害者主張大会実行委員会	精神保健福祉士	4
精神障害者スポーツ大会実行委員会	精神保健福祉士	2
精神障害者スポーツレクリエーション大会実行委員会	精神保健福祉士	2
精神障害者雇用支援連絡協議会	精神保健福祉士	1

Ⅱ 人材育成

1 精神保健福祉担当者研修会

県における精神保健福祉担当者、従事者が地域精神保健福祉業務・事業を行う上で必要な情報共有や技能習得、職員の資質の向上を目指すことを目的に開催した。平成24年度開催状況は次のとおりである。

日 時	内 容	参加者数
平成24年4月19日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担 ・精神障害者地域移行支援事業について 話題提供者：障害福祉課 ころの健康担当 副主幹 青柳 幾子氏	16人
平成24年5月14日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研修会内容検討 ・ピアサポーター養成研修について ・精神医療審査会法施行事務について 	14人
平成24年7月13日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉相談の受け方について ・自殺対策強化 ・緊急措置入院・措置入院における流れ、及び様式の確認 話題提供者：精神保健福祉センター 副主幹 秋山 盛治	13人
平成24年9月19日（水）	<ul style="list-style-type: none"> ・業務・事業における情報交換 ・「ひきこもりの概要とその対応・支援について」 話題提供者：精神保健福祉センター 所 長 小石 誠二	14人
平成24年12月20日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・事例紹介～受診援助ケース～ 話題提供：中北保健福祉事務所・峡北支所 技師 芦沢 茂喜氏	10人
平成25年2月28日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもりの支援・調査報告について ・業務・事業における情報交換 話題提供者：精神保健福祉センター 所 長 小石 誠二 副主査 菰原 和子	11人

2 地域精神医療研究会

精神保健福祉に関わる関係者が、講演会、事例検討会、話題提供等をとおして情報交換し、知識の習得や研鑽を図ることを目的に精神保健協会との共催で、第2又は第4木曜日（原則）の午後3時～5時に開催した。平成24年度開催状況は次のとおりである。

日 時	内 容	話題提供者・講演者	参加者数
平成24年 5月10日（木）	平成24年度山梨県精神保健福祉事業と精神保健福祉センターの事業について	障害福祉課 心の健康担当 課長補佐 石原德行氏 副主幹 青柳 幾子氏 精神保健福祉センター 副主幹 秋山 盛治	26人
6月14日（木）	フードバンク山梨の活動について	フードバンク山梨 理事長 米山けい子氏	18人
7月12日（木）	地域生活定着支援センターの紹介	地域生活定着支援センター センター長 小泉 晃彦氏	30人
9月13日（木）	自殺再企図防止ケア事業の報告	精神保健福祉センター 所長 小石 誠二	23人
10月11日（木）	みさきピアカウンセリングの活動について	支援センターみさき 精神保健福祉士 三澤 充恵氏	23人

日 時	内 容	話題提供者・講演者	参加者数
平成25年 1月24日（木）	希望の架け橋になる！ アウトリーチ推進事業の取り組み について	アウトリーチチーム シーフォファール Si può fare! 中谷 真樹氏 藤江 千歳氏 小川 瑛子氏	15人

3 精神保健福祉事例検討会

当研修会は、地域精神保健福祉活動のさらなる推進及び充実のために、事例検討を通して関係職員の資質向上、関係機関の連携及び協力を図ることを目的に開催した。その内容、開催状況は次のとおりである。

1) 児童・思春期事例検討会

日 時	人 数
平成24年 6月14日（木）	14人
平成24年 7月19日（木）	12人
平成24年 8月23日（木）	6人
平成24年10月11日（木）	15人
平成24年11月 9日（木）	10人

不登校・学校不適応等の事例について、小・中・高校の教諭・養護教諭、教育・保健・医療・福祉の関係職員により事例検討の持ち方自体についても考察するとともに、生活場面で観察された行動からこどもの理解を深め、具体的な支援方法についても検討した。

2) 精神保健福祉（母子・精神）事例検討会

日 時	人 数
平成24年 8月30日（木）	13人
平成24年 9月24日（月）	9人
平成24年10月29日（月）	8人

母子関係、精神障害等の事例について、毎回1事例ずつ市町村、保健所、医療機関、社会復帰施設、相談支援事業所等の関係職員により検討した。地域生活における当事者・家族支援スキルの向上を目的に、より実践的に事例のまとめ方や援助方針の立案について理解を深めた。

4 精神障害者地域移行支援事業

精神科病院において条件が整えば退院可能な入院患者（以下「社会的入院患者」という。）の退院を促進し、地域で安心して生活できるようにするため、その支援の中心となるピアサポーターをはじめとする関係者の知識・技術の習得のための研修を行い、社会的入院患者が退院した地域における受け入れ基盤の拡充を図ることにより、事業の円滑かつ効果的な実施を図ることを目的とし実施した。

日時/場所	内 容	参加者数
平成24年6月22日（金） 26日（火） 精神保健福祉センター	第1回ピアサポーター養成研修会 精神障害者地域移行支援事業について 障害福祉課 副主幹 青柳 幾子氏 ピアサポーターの支援の実際と 地域体制整備コーディネーターの役割について 甲府圏域ピアサポーター 高野 一美氏 峡東圏域ピアサポーター 新沼 洋介氏 中北保健所峡北支所 弘田 恭子氏 演習 山梨県立大学 准教授 大塚ゆかり氏	33人
平成25年3月7日（木） 精神保健福祉センター	第2回ピアサポーター養成研修会 話題提供～圏域での活動について～ 峡西・峡北圏域きがる館 平井 隆憲氏 甲府圏域 すみよし生活支援センター 望月 義次氏 意見交換会 山梨県立大学 准教授 大塚ゆかり氏	40人

Ⅲ 広 報 ・ 普 及

1 所報、パンフレット等印刷物の発行

所報は精神保健福祉センターの1年間の事業実績を収録し、ホームページに掲載した。その他、パンフレット・リーフレットを作成し配布している。

2 広報視聴覚教材の提供・貸出（ビデオ・図書・パネル）

Ⅳ 調 査 研 究

1 趣旨・内容

近年、就学、就労といった社会参加や対人的な交流を行わず自宅を中心とした生活をおくるひきこもりという状態を呈するケースが増えている。ひきこもりケースには多彩な精神障害が関与しているといわれ、ひきこもりケースへの支援は地域精神保健福祉活動を進める上で優先的に取り組まなければならない課題である。ひきこもりの状態にある人は、全世帯数の0.56%にあたり、全国推計では約26万世帯といわれており、当県では1,600人と推計される。厚生労働省では平成21年度から「ひきこもり地域支援センター」の設置を都道府県や政令市に進めており、ひきこもりケースへの支援を行う「ひきこもり地域支援センター」の当県でのあり方を検討する必要がある。本研究は、県内の関係機関でどのようなひきこもり支援が実施されているのかを把握し、今後の支援の充実を図ろうとするとときどのような情報、サービス、資源が必要かを検討するための基礎資料とすることを目的として実施した。結果、県内の多くの機関でひきこもりケースへの相談に対応している実態が明らかになりまた、各機関で様々な支援を行いつつも、苦慮している現状が分かった。

「ひきこもり支援に関する実態調査について」

県内の関係機関に対して、ひきこもりケースの支援がどのように行なわれているか調査を行なった。

結果報告

平成24年度 研究紀要に掲載

2 その他の研究内容－山梨県公衆衛生研究発表会で発表

「ひきこもり青年を対象としたアクティビティ・グループの有効性と今後の展開について」

当センターでひきこもり支援の一環として実施しているアクティビティ・グループの活動を振り返り、グループの有効性と課題を明らかにした。

結果報告

平成24年度 研究紀要に掲載

V 精神保健福祉相談

1 精神保健福祉相談件数

() 内は23年度

相談種別	区 分	24年度新規件数	繰越件数	延 件 数	総 計
所内相談	一般相談	21 (22)	26 (24)	208 (175)	1,666 (1,967)
	心の病い相談	75 (74)	152 (176)	1,458 (1,792)	
事務所 電話相談	一般相談	220 (192)	321 (407)	541 (599)	1,320 (1,380)
	心の病い相談	461 (369)	318 (412)	779 (781)	
ストレス ダイヤル	一般相談	19 (29)	829 (847)	848 (876)	1,312 (1,196)
	心の病い相談	162 (89)	302 (234)	464 (323)	

所内相談の新規の相談件数は96件（一般相談21件、心の病相談75件）であり、昨年度と同様だった。思春期に係わる相談や自殺関連相談等、継続しての相談を行うことが多くなっている。

平成18年度から事務所内電話相談と「こころの電話相談室（ストレスダイヤル）」事業による相談とを別に集計している。ストレスダイヤルの電話相談の内訳は、心の健康づくり推進事業に再掲している。なお、夜間の電話相談の件数は、精神科救急情報センター窓口運営事業に掲載している。

一般相談は、内因性および器質性といわれる疾患にかかわる相談である。心の病い相談は、一般相談以外のもので、不登校・学校不適應などの相談から対人関係に関わる相談、摂食障害、アディクション、あるいは一過性のストレス状態など、より広い状態を含める。

2 新規所内相談の内訳

1) 月別件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件 数	7	7	7	5	4	2	9	7	10	12	5	4	96

2) 内容・診断別件数

保育・幼稚園や学校にかかわる相談が多い。

相 談 内 容 ・ 診 断 名	件 数
保育・幼稚園や学校にかかわる相談	29 (30.2%)
不登校・不登園	21
学校不適應	8
行動の問題にかかわる相談	4 (4.2%)
自傷行為	3
家庭内暴力	0
反社会的行動	1
摂食障害	0
性格や癖にかかわる問題	16 (16.7%)
抑うつ状態	7
情緒不安定	5

相談内容・診断名		件数
	強迫・こだわり	1
	選択性緘黙	3
対人関係の問題にかかわる相談		6 (6.3%)
	家族関係について	4
	友人・異性との関係について	2
ひきこもりにかかわる問題		13 (13.5%)
	ひきこもり	12
	対人不安	1
アディクションにかかわる相談		1 (1.0%)
	薬物	1
受診・入院・入所・福祉制度にかかわる相談		19 (19.8%)
	社会復帰・制度について	10
	受診・入院相談	5
	精神疾患について	4
育児不安・困難・虐待にかかわる相談		1 (1.0%)
	虐待	1
自殺関連相談		7 (7.3%)
	自殺企図・企死念慮	5
	自死遺族相談	2
計		96

3) 処置別件数

処置	継続ケース	助言指導	医療機関紹介等	その他	合計
件数	74	17	5	0	96
割合(%)	77.1	17.7	5.2	0	100.0

4) 来談者別件数

来談者	本人	配偶者	父	母	子	兄弟	親戚	市町村関係者	教育関係者	職場関係者	その他	計
来談者件数	70	4	15	59	0	2	1	1	1	1	3	157

(複数)

5) 保健所別件数

保健所	中北	峡北支所	峡東	峡南	富士・東部	県外	その他	計
件数	53	20	11	7	4	1	0	96
割合(%)	55.2	20.8	11.5	7.3	4.2	1.0	0.0	100.0

6) 年齢別件数

年齢	10歳未満	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60歳以上	不明	計
新規相談件数	1	45	17	17	10	5	0	1	96
割合(%)	1.0	46.9	17.7	17.7	10.4	5.2	0	1.0	100.0

所内相談の内容別件数では、不登校や学校不適應についての相談が従来通り多く、年齢も小学生から大学生年齢と幅がある。ひきこもりや行動、情緒の問題にかかわる相談も多い。また、自殺関連の相談も増えてきている。

新規所内相談の処置件数では、7割が継続ケースであり、他機関との連携やより専門性の高い支援が必要なケースが増加している。

Ⅵ 組織の育成

組織育成として山梨県精神保健協会、山梨県精神保健福祉協力事業所の会、精神障害当事者等リーダー会議などに関わっている。平成24年度実施状況は次のとおりである。

1 山梨県精神保健協会

1) 沿革

山梨県精神保健協会は、昭和42年7月27日に山梨県臨床心理懇談会、山梨県精神病院協会を母体に精神保健思想の普及向上を図ることを目的に発足した。

発足当時、事務局は本庁公衆衛生課（現健康増進課）に置かれたが、昭和46年4月に精神衛生センター（現精神保健福祉センター）の設置とともにセンター内に移された。

昭和62年に創立20周年にあたり、会員主体の活動を活発化するため、協会組織の検討を行い、常任理事88人、理事48人から理事23人と改正した。

平成4年に山梨県精神衛生協会から山梨県精神保健協会に名称を変更した。

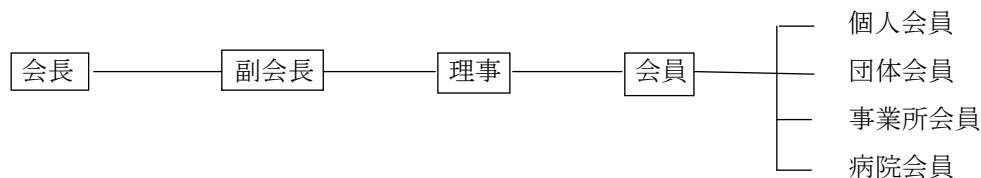
平成16年には、理事の選出団体の改正と7委員会から3委員会へ統合を行った。

2) 組織

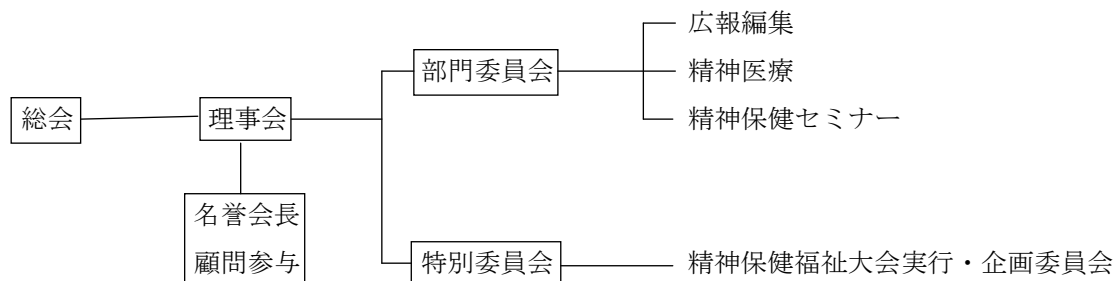
全国精神保健福祉連絡協議会の下部組織として位置づけられている民間団体である。会員は、精神保健、医療、福祉、教育、更生保護、警察、矯正、産業、労働、広報等、幅広い分野の関係者で構成している。

平成24年度の会員数は、個人会員431人、団体会員31団体、事業所会員5所、病院会員9病院である。

ア、系統組織



イ、機能組織



3) 事業実施状況

(1) 会議に関するもの

① 定期総会

日時：平成24年 5月28日(月) 午後1時30分から4時00分 参加者 34人

記念講演：テーマ「子どもの発達をめぐって」

講師：山梨県立こころの発達総合支援センター 所長 本田 秀夫 氏

②理事会 5回

③部門委員会

広報編集委員会 2回

精神保健セミナー委員会 9回

精神医療部門委員会 1回

④山梨県精神保健福祉大会企画委員会 4回

(2) 普及啓発に関するもの

①第59回山梨県精神保健福祉大会・第17回心の健康を考えるつどい

日時：平成24年11月26日(月) 午前10時00分から午後2時30分

場所：甲府市総合市民会館 芸術ホール、山の都アリーナ

参加者：637名

内容：「大会」

・式典

・記念講演 演題「生活習慣病から考えるうつ病予防」

講師 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
精神保健計画研究部 システム開発研究室長 西大輔氏

・「つどい」

県下の精神科病院、地域生活支援施設や事業所等で制作した作品の展示・販売
各病院・施設の利用者によるステージショー、当事者による店舗PR

②精神保健セミナー 年2回

	日時、場所	内容	参加者
103回	平成24年10月4日(木) 甲斐市立敷島小学校	テーマ：「認知症を正しく知って『いのち』を支える地域をつくろう」 公演 第一部「認知症を学ぼう」 認知症の人と家族の会 あした葉劇団による公演 第二部「認知症サポーターになろう」 サポーター養成講座 講師 平井出 設子氏	児童・保護者・学校関係者・高齢者団体・一般 481人
104回	平成24年11月17日(土) 山梨学院大学 メモリアルホール	テーマ：「夢の応援団」 ～子どもと一緒に歩もう～ 講演：「いつも笑顔で」 講師：元オリンピック選手 萩原 智子氏 主催：山梨県PTA協議会 共催：精神保健協会 (セミナー委員会)	保護者・教育関係者 360人

③地域精神医療研究会 6回 (Ⅱ教育・研修を参照)

④機関誌「せいしんほけん」第48号発行

2 山梨県精神障害者家族会連合会（しゃくなげ会）

1) 沿革

山梨県精神障害者家族会連合会（しゃくなげ会）は昭和47年7月に結成された。昭和48年には第1回県連合会総会、第1回家族大会が行われ、各保健所管内家族会（措置患者家族）により組織された。その後昭和50年の第4回総会を契機として、市町村単位家族会づくりに力を入れ、県下56市町村中30市町村に家族会が組織された。

昭和56年度より病院家族会（4か所）が県連合会に加入、その後県内の精神病院に順次設立され、現在県下9病院家族会が加入している。

2) 活動状況

現在、県連しゃくなげ会は各地域家族会と9つの病院家族会、1つの精神障害当事者会家族会で組織されている。

県連の活動は、陳情行動、研修会・講演会の実施、県からの委託事業による社会参加促進のための情報誌の発行など、年々幅広い活動を行ってきた。

また、各傘下の家族会でも、研修会・講演会が実施されている。しかし、県連合会をはじめ、どの家族会も高齢化、家族会会員の減少、家族会への参加率の減少等、これからどのように会を発展させていけばいいのかが課題になっており、これは、全国の家族会でも共通した課題となっている。

県連は19年度、精神保健福祉センターから事務局を移管し独立を果たした。今年度、当センターでは側面的な支援、組織育成を行ってきた。

3 山梨県精神保健福祉協力事業所の会

1) 沿革

山梨県精神保健福祉協力事業所の会は、障害をもつ人も、もたない人も共に支えあいながら働ける職場や社会の実現を目指し、精神障害者社会適応訓練事業の協力事業主を中心に平成11年9月20日に結成された。

事務局を一般事業所において、会員同士の情報交換をし、相互研讃に励むと共に、就労施策のより一層の確立を求めることを通じて精神障害者の自立と社会参加の促進を目的に事業を行っている。

2) 事業実績

- (1) 役員会 1回
- (2) 研修会 1回

○研修会内容

日 時	場 所	参加者	内 容
平成25年 3月25日(月)	精神保健福祉 センター	約20人	「精神障害者の雇用と就労について」 すみよし生活・就労支援センター 施設長 森屋 直樹 氏

4 山梨県精神障害者地域活動支援事業所連絡会

県内の作業所は、昭和62年4月の開設を初めとして平成18年度に1か所が開設して16か所となり、自立支援法が施行され、全ての作業所が地域活動支援センターⅢ型等に移行した。連絡会は、精神障害者の自立と社会参加の促進を目指して、職員がお互いに情報を交換し学び合う場・支えあう場・研修の場として開催している。今後は、施設職員の組織化と自主的な活動に向けて支援を行う。平成23年度より、会の名称が変更となった。

日 時	内 容	参加者数
平成24年 6月 4日(月)	B型に移行した状況について NPO法人 八峰会 就労支援事業所 かしのみ	18人
12月 3日(月)	DVD鑑賞と資料説明 「統合失調症の人の回復力を高める家族のコミュニケーション」	16人
平成25年 3月 4日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の備えについて 障害者優先調達法について 来年度の「心の健康を考えるつどい」 	17人

5 虹の会（当事者の会）

虹の会（当時ソーシャルクラブ）は昭和55年にセンターデイケアの卒業生として結成され、平成13年度にはセンターデイケアを終了したメンバーの多くが虹の会に入会して活動している。17年度からは広く新規入会者を受け入れて活動している。

- 《活動日》 グループ活動：第2火曜日 午後1時～3時
 話し合い・通知発送作業：第4金曜日 午後1時～3時
 音楽会：第3金曜日 午後1時～3時30分
 自主活動：月1回（不定期）

月	グループ活動			音楽会		話し合い		自主活動・その他		
	日	内 容	人	日	人	日	人	日	内容	人
4月	10日	新職員さんとの昼食会	4	20日	4	27日	4	17日	昼食会（けん）	2
5月	8日	バイキング	4	18日	5	25日	6	16日	個人OT	3
6月	12日	道の駅白州・台が原	5	15日	4	22日	4	20日	個人OT	2
7月	10日	かっぱ寿司	7	20日	4	27日	5	18日	フリートーク、個人OT	4
8月	10日	バイキング	4	17日	3	24日	4		活動なし	
9月	7日	障害者文化展見学	5	21日	4	28日	4	12日	個人OT	2
10月	16日	日帰り旅行	6	19日	4	26日	5	2日	コンツェルト・エスペーロ	3
								10日	個人OT	2
11月	14日	バイキング	3	16日	3	30日	4	26日	心の健康を考える集い	自主
12月	11日	忘年会（けん）	5	14日	4	21日	3		活動なし	
1月	11日	初詣と食事会	5	18日	3	25日	4	15日	お茶会	2
2月	12日	かっぱ寿司	3	15日	0	22日	2	20日	県立美術館	2
3月	12日	不思議なレストラン	3	15日	4	22日	4	19日	ファミレスで食事会	2

6 絆屏の会

虹の会メンバー家族の他、当センターへ来所相談を継続している精神障害をもつ者の家族への援助の場として毎月開催されている。現在は、各家族の日頃の悩みについて話したり、情報を共有したりすることで、「ここに来れば話ができる」、「こういう話は他ではできない」という声が聴かれ、ピアサポートという側面が目立っている。

日 時	内 容	人数	月 日	内 容	人数
4月11日(水)	総 会	3	10月10日(水)	定例会	2
5月 9日(水) 28日(月)	「春の陽」見学 精神保健協会総会	3 自主	11月14日(水) 26日(月)	定例会 精神保健福祉大会・ 心の健康を考えるつどい	4 自主
6月13日(水)	所長との座談会 「災害時の反応と支援」	4	12月13日(水)	外で話し合い	3
7月11日(水)	定例会	4	平成25年 1月25日(水)	定例会	3
8月 8日(水)	お休み	2	2月 8日(水)	定例会	4
9月12日(水)	定例会	3	3月13日(水)	定例会	3
			4月 9日(水)	総 会	4

7 ボランティア活動への支援

県内において精神保健等のボランティア活動を実施しているグループに対して、必要に応じて技術支援を行なっている。

8 精神障害当事者等リーダー会議

平成14年度から県内の各病院・施設等に所属している当事者の代表が集まり、これからの地域精神保健福祉に関する意見や要望を話し合う会として精神障害当事者等リーダー会議を開催している。会議はメンバーが進行し、県や関係団体主催事業への実行委員の選出や、リーダー会議が主催する勉強会についての話し合い等、さらなる自主性の向上に向けて活動している。

日 時	内 容	参 加 者 数
平成 24 年 5 月 22 日(火)	〈全体会①〉 ・経過説明 ・部会員選出 ・全体会での活動内容について	当事者8人 スタッフ4人 計 12人
平成 24 年 8 月 7 日(火)	〈全体会②〉 ・研修会について ・ピアカウンセリングにつて	当事者6人 スタッフ2人 計 8人
平成 24 年 10 月 22 日(月)	〈研修部会〉 「楽しく生きよう！〔実践・解決編〕」～人間関係の 難しさ手をつなごう 人と人の和～の内容検討	当事者5人 スタッフ1人 計 6人
平成 25 年 1 月 22 日(火)	〈全体会③〉 ・今年度の振り返り ・勉強会について ・来年度のリーダー会議について	当事者6人 スタッフ2人 計 8人
平成 25 年 3 月 8 日(金)	「楽しく生きよう！〔実践・解決編〕」～人間関係の 難しさ手をつなごう 人と人の和～開催	参加者 48人

Ⅶ 社会参加促進事業

第17回 心の健康を考えるつどい

- 1) 目的 県民を対象に、日ごろから心の健康について考える機会として開催するとともに、障害のある人やない人、子どもから高齢の人たちまで様々な立場の人々が、家庭や地域でよりよく生活ができるよう精神保健福祉に対する県民の理解を深めること、互いに尊重し合い明るく暮らせる社会づくりの促進。
- 2) テーマ 『やさしさでつくる 共生社会』
- 3) 日時 平成24年11月26日(月) 午後10時00分～午後2時30分
- 4) 会場 甲府市総合市民会館
第1部 芸術ホール 第2部 山の都アリーナ
- 5) 内容 第1部 … 第59回 精神保健福祉大会
第2部 … 県内各施設制作作品の展示・販売、当事者による店舗PR、
各病院・施設の利用者によるステージショー

※当日は、精神障害当事者、家族、地域住民、関係者等合わせて637名の参加があった。

第1部 式典・表彰

記念講演 演題 「生活習慣病から考えるうつ病予防」

講師 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
精神保健計画研究部 システム開発研究室長 西大輔氏

第2部 心の健康を考えるつどい

展示・販売、店舗PR

ステージショー

販売・展示 出展団体紹介

○病院・診療所

山角病院 HANAZONO ホスピタル 回生堂病院 三生会病院 山梨厚生病院 韮崎東ヶ丘病院
富士吉田診療所

○社会復帰施設等

市川三郷町精神デイケア すみよし作業センター ぱれっと ひらしな ココット かしのみ
富士桜作業所 塩山授産園 サービスセンター八峰（しらかば工房、すずらん工房、自遊工房、
レインボーハウス高根） 都留むつみの家 さくらハウス石和 ドリーム工房韮崎 甲斐志麻の
里ファーム NPO法人山梨ダルク 精神保健福祉ボランティア連絡会

販売・展示品紹介

●販売品 ＊パン・お弁当・フランクフルト・クッキー・各種ケーキ・スイートポテト・チョコバナナ・フルーツポンチ・手作り味噌・手作りジャム・コーヒー等飲み物・果物・野菜・落花生・ぎんなん・手工芸品・陶芸等の販売

●展示品 ＊施設活動紹介ボードなど

ステージショー 発表病院・施設紹介

ココット「HEART」、県立北病院、しらかば工房、ドリーム工房韮崎「ドリーム&ダンサー π（パイ）」、韮崎東ヶ丘病院デイケア「デコちゃん」、住吉病院デイケア「音楽グループ」

Ⅷ 特定相談指導事業

1 アルコール関連問題に関する相談指導等

1) 広報普及

当センターでは、昭和53年から国に先駆けて酒害相談指導事業を実施し、昭和54年からは、国の特定相談事業の一環として「アルコール関連問題に関する相談事業」や「アルコール家族教室」を中心に行ってきたが、近年県内のアルコール医療施設の充実や自助グループ活動の活性化により、相談の役割は専門医療機関等が中心となっている。このような現状を踏まえ、センターにおけるアルコール関連対策は、知識の普及啓発を目的に一般県民を対象に講演会を開催した。

(1) 専門家等によるアルコール乱用防止に関する講習会

日 時	場所	対象	内容	参加者数
平成25年 2月7日(木) 8日(金)	若草中学校	・3年生 ・教師	講義・話題提供 ：「アルコールの危険性」 話題提供者：AA会員	626人

(2) アルコール保健講演会

日 時	場所	対象	内容	参加者数
平成24年 11月22日(日)	山梨県立大学飯田 キャンパスB館講 堂	・一般県民 ・医療、行政、 教育関係者	(1) アルコール依存症本人の体験発表 (2) 自主上映会 「酔いがさめたら、うちに帰ろう。」	87人

2 思春期精神保健に関する相談指導等

思春期に対する当センターの取り組みは、一般の精神保健福祉相談としても対応しているが、厚生省補助事業「心の健康づくり推進事業」（昭和60年6月18日付）および厚生省保健医療局長通知「精神保健センターにおける特定相談事業要領について」（昭和64年1月5日付）に基づき、思春期コンサルタント事業として実施されている。

1) 思春期精神保健福祉相談（原則として予約制）

(1) 定例相談（思春期コンサルタント事業）

小児科医による相談（毎月3回～4回）、当センター内で実施。

精神科医による相談（毎月1回～2回）、当センター内で実施。

	年度内新件数	繰越件数	延 件 数
相 談 件 数	12	27	116

(2) 所内相談（精神保健福祉相談）

月曜日～金曜日の午前9時～午後5時まで、当センターで実施。

	年度内新件数	繰越件数	延 件 数
所 内 相 談	46	135	898

※なお統計上、思春期とは10歳以上20歳未満をさしている。

(3) 新規所内相談内容別件数

相談内容・診断名		件数
学校等にかかわる相談		28 (60.9%)
	不登校・不登園	21
	学校不適応	7
行動の問題にかかわる相談		3 (6.5%)
	自傷行為	2
	反社会的行動	1
性格や癖にかかわる相談		5 (10.9%)
	抑うつ状態	0
	情緒不安定	2
	強迫・こだわり	0
	その他	3
対人関係の問題にかかわる相談		1 (2.6%)
	家族関係について	1
ひきこもりにかかわる相談		5 (10.9%)
	ひきこもり	5
	対人不安	0
計		46

※ P18 精神福祉相談・新規所内相談の内訳より抜粋

(4) 相談援助内容

相談援助内容	件数
継 続	43
助 言 指 導	2
紹 介	1

2) 集団支援

- (1) 「ひきこもり青年を対象としたSST（生活技能訓練）グループ」
- (2) 「ひきこもり青年を対象としたアクティビティグループ」

(1) 「ひきこもり青年を対象としたSST（生活技能訓練）グループ」

開催日時	毎月第1, 3月曜日 午後2時～3時
場 所	精神保健福祉センター 心理検査室2
対 象	青年期に相応の社会参加や社会交流の機会を持つことができない、あるいはその機会を回避しようとするケースのうち、統合失調症と中等度以上の精神発達遅滞を背景とするケースを除き、当センターで個人面接を継続しており、SSTの参加について同意を得られる者。
ス タ ッ プ	心理技術者、グループトレーナー
実施回数	24回
実 人 数	7人
延 人 数	41人

(2) 「ひきこもり青年を対象としたアクティビティグループ」

実施回数 15 回

日 時	活 動 内 容	参加人数 (延べ)
4月23日	新年度計画・昼食会	12
5月21日	料理 (お好み焼き)	10
6月18日	絵手紙	7
7月23日	ミットパーカッション～音楽に合わせて身体を動かそう！～	12
8月27日	作業体験 (農作業)	6
9月6日	作業・就労体験 (農作業)	16
9月18日	室内ゲーム	10
10月2日	コンサート・ボランティア (会場セッティング)	4
10月17日	研修会ボランティア (受付)	5
11月16日	バドミントン	9
12月17日	クリスマス会	7
1月21日	初詣・昼食会 (おしるこ)	8
2月8日	作業・就労体験 (農作業)	11
2月27日	他団体との交流会 (バドミントン)	13
3月22日	振り返りと来年度の活動希望	7
計		137

(3) 「ひきこもり家族教室」

「ひきこもり青年」の相談の増加に伴い、平成9年度から家族教室を開催している。

回	日 時	内 容	参加人数
1回	平成24年7月5日 (木)	第1回「ひきこもり」の理解と対応① ・オリエンテーションと自己紹介 ・ひきこもりの現状 講師 精神保健福祉センター所長 小石 誠二	13人
2回	平成24年7月26日 (木)	第2回「ひきこもり」の理解と対応② ・ひきこもりの精神医学的診断と支援について 講師 精神保健福祉センター所長 小石 誠二	10人
3回	平成24年8月9日 (木)	第3回「ひきこもり」の理解と対応③ ・家族支援について 講師 精神保健福祉センター所長 小石 誠二 ・意見交換	9人

(4) 「ひきこもり親の会」

開催日時	毎月第2木曜日 (家族教室開催月は除く) 午後1時～3時
場 所	精神保健福祉センター 集団精神療法室
内 容	親の精神的安定を図り、親子関係の改善を目的として、主に心理職がグループ関わり、ひきこもる青年の理解や関わり方などの親の悩みについて話し合う。
実施回数	9 回
実 人 数	11 人
延 人 数	51 人

3) 思春期問題連絡会議

思春期の医療、相談、教育等に関わっている関係者の代表者や学識経験者が情報や意見を交換し合い、相互の連絡調整と連携を図るために開催した。

日時	内容	出席者数
平成24年 7月18日(水)	1 各機関の代表者(担当者)の自己紹介及び各機関における近況報告 2 話題提供 ① 収容されている少年の特徴とその支援 甲府少年鑑別所 統括専門官 長谷川 准氏 ② 若年者層における雇用対策と支援 甲府公共職業安定所 統括職業指導官 村松 千里氏	25人
平成25年 2月20日(水)	1 各機関における近況報告 2 話題提供 ① 県立北病院における思春期ショートケア「ぴゅーぱ」及び思春期に関する事業について 県立北病院 主任 矢崎 麻由 氏 ② 山梨県におけるスクールカウンセリングの現状 臨床心理士会 臨床心理士 百瀬 裕三 氏	19人

4) 思春期問題ワークショップ

教育や精神保健福祉などの関係者を対象とした研修会を2回開催した。

日時・場所	内容	参加者数
平成24年11月14日(水) 県立博物館	講義①「思春期と関わる支援者のメンタルヘルス」 講師 精神保健福祉センター所長 小石 誠二氏 講義②「児童・思春期の直面する課題」 ～ポジティブな視点をとおして～ 講師 心理臨床オフィス・ルーエ 臨床心理士 深沢 孝之 氏	63人
平成25年3月6日(水) 県立大学池田キャンパス	講義 「児童・思春期の直面する課題②」 ～ポジティブな視点をとおして～ 講師 心理臨床オフィス・ルーエ 臨床心理士 深沢 孝之 氏	57人

3 薬物関連問題相談指導等

趣 旨

近年、我が国では、中・高校生等に覚せい剤等の乱用が広がるなど、県民の健康の保持・向上を図る上で重大な課題となっている。このような深刻化する薬物乱用を防止し、また、薬物依存者の社会復帰を促進するため薬物関連問題に対する正しい知識の普及と薬物関連問題に関する相談を開催することにより、中・高校生を対象にした正しい知識の普及および健康教育の機会とする。

1) 精神科医師等による薬物乱用防止に関する講習会

日 時	場 所	対 象	内 容	参加者数
平成24年 7月27日 (金)	山梨高校	・ 全校生徒 ・ 教師	講演：「大麻・覚醒剤等、薬物乱用防止について」 講師：藤原医院 院長 藤原茂樹氏	630人
平成24年 10月23日 (火)	玉穂中学校	・ 全校生徒 ・ 教師	講義・話題提供： 「薬物乱用大麻・覚醒剤、脱法ハーブ等の薬物乱用防止について」 話題提供者：山梨ダルク 毛利学雄氏、小林郷志氏	434人
平成24年 12月13日 (木)	玉穂中学校	・ 2 学年生徒 ・ 教師	講義・話題提供： 「薬物乱用大麻・覚醒剤、脱法ハーブ等の薬物乱用防止について」 話題提供者：山梨ダルク 毛利学雄氏	37人

2) 薬物関連問題相談専門研修会

日 時	内 容	講師	参加者数
平成24年 11月15日 (木)	講演「薬物依存症に関する基礎知識とその治療～支援について」	くぬぎクリニック 院長 興石 郁生氏	80人

3) 薬物関連に関する相談事業

薬物関連問題に対する精神科医師による相談事業の実施（予約制）

場 所 精神保健福祉センター

日 時 平成24年4月～平成25年3月

Ⅸ 心の健康づくり推進事業・自殺予防対策事業

1 自殺予防対策

1) かかりつけ医等うつ病対応力向上研修会

目的：自殺による死亡率は全国で年間3万人を越えている。本県においては平成23年212人が亡くなられ、死亡率はここ数年全国平均を上回っている。自殺の背景に、うつ病が高い比率で占めていることが指摘されているが、うつ病やうつ状態の患者は精神科以外の診療科を受診することが多いという報告もある。身体症状等を訴えて受診行動をとるうつ病・うつ状態患者の早期発見・早期対応を可能にするため、精神科以外のかかりつけ医師や看護師等病院職員を対象に、うつ病および自殺予防に関する研修会を実施することで自殺対策の一層の推進を図ることを目的とする。

日時	場所	内容	参加者数
平成25年 1月11日(金)	中富総合会館 2階 A・B会議室	1)自殺の実態と国・県の自殺対策 精神保健福祉センター所長 小石 誠二 2)うつ病の理解と治療について ①うつ病の基礎知識 ②診断・治療 ③連携 地方独立行政法人山梨県立北病院 精神科医 三澤 史斉 氏	医師10人

平成25年 3月15日(金)	都留市立病院 北棟3階 講堂	1)自殺の実態と国・県の自殺対策 精神保健福祉センター所長 小石 誠二 2)うつ病の理解と治療について ①うつ病の基礎知識 ②診断・治療 ③連携 医療法人回生堂病院 院長 青木 勇人 氏	39人うち 医師6人
-------------------	----------------------	--	---------------

2) 自殺事後ケア事業

(1) チーム員養成研修

日時	場所	内容	参加者数
平成25年 2月26日(火)	山梨県立大学池田 キャンパス	養成基礎研修会 講義「心の緊急支援活動の実際」 講師：日本ストレスケア研究所 研究員 澤地 都志子氏	27人

(2) チーム員登録内訳

	Dr	PHN	PSW	CP	SW	Ns	OT	計
民間	0	1	0	4	0	0	0	5
県職員	2	22	13	21	13	3	1	75
合計	2	23	13	25	13	3	1	80

3) 自殺防止電話相談

自殺は「予防可能な社会的問題」とされ、相談事業のより一層の充実が必要とされている。自殺防止に特化した電話相談事業を行うことで、自殺を考えるに至った方のより危険性の高い相談に対応し自殺防止に努めるため、平成21年4月1日から国の「全国統一電話『こころの健康相談統一ダイヤル』」を受け開始された。開設時間は祝祭日、年末年始を除く、月曜日から金曜日の午前9時から午後4時までとなっている。

なお、火曜日～日曜日の午後4時～午後10時が、「山梨いのちの電話」に委託されている。

平成24年度の年間相談件数は107（うち時間外6件）であった。

4) 自死遺族相談

自死遺族となった場合、自身だけで回復することが困難なことが多く、遺族が抱える個別の複雑な背景を十分に理解した上で、保健医療、福祉、心理、経済、法律等の様々な問題に対して、多様な側面から支援し、心理的影響等を緩和することが求められる。当センターでは傷つき孤立しがちな遺族の心理的および社会的な回復を支援することを目的に、平成21年7月から自死遺族相談窓口を開設している。開設時間は毎月第3水曜日の午後1時から4時までとなっている。

2 各種事業への技術指導援助

1) 自殺予防推進大会

自殺問題は個人の問題でなく、社会全体の問題であるという認識を広げるため、自殺予防週間の一環として、県民に自殺や精神疾患についての正しい知識を普及啓発し、偏見をなくしていくとともに、命の大切さや自殺予防のための対応方法等について、県民の理解を促進することを目的に、自殺予防推進大会を開催しており、センターでは、企画・運営等の技術的支援をしている。

2) 自殺再企図防止ケア事業

自殺を企図した未遂者は再び自殺を考えることが多いと言われており、未遂者支援は自殺予防対策上、重要なハイリスク者対策である。救急救急センターに搬送された自殺企図者に対し、自殺企図の原因の解決に向けて、様々な分野の関係機関が連携して支援を行うことにより、自殺企図者の再企図を防止することを目的とした自殺再企図防止ケア事業を平成22年4月より、山梨県看護協会に委託し実施している。センターでは、技術的支援をしている。

3) 自殺対策人材育成事業

地域における自殺対策を効果的に推進するため、行政、保健、医療、福祉、教育、警察、消防などの自殺対策に関わる関係機関の職員等を対象とした自殺予防に必要な知識や対応に関する研修会実施を山梨県看護協会に委託し実施している。センターでは、企画実施に関する技術的支援・講師派遣などを行っている。

3 「こころの電話相談室」－ストレスダイヤル－

「心の健康づくり推進事業」の一環として、「こころの電話相談室－ストレスダイヤル－」を行っている。
電話相談開設時間は、月曜日から金曜日の午前9時から午後4時までとなっている。

なお、夜間相談については、平成10年度より「精神科救急情報センター“心の健康相談窓口”」へ移行した。

・ストレスダイヤル利用状況

1) 相談件数・相談対応時間

平成2年度より始まった「ストレスダイヤル」も年々相談件数が増加している。

平成18年度より、事務所内の電話相談とストレスダイヤルの電話相談の件数を分けて集計しているの
で、ストレスダイヤルの総数は、集計上減少している形になっている。

1ヶ月平均109件、一件の平均対応時間は17.11分であった。

2) 月別相談件数

(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般相談	78	66	63	72	90	69	88	71	53	68	56	74	848
心の病相談	31	31	18	35	52	52	47	45	51	41	35	26	464
合計	109	97	81	107	142	121	135	116	104	109	91	100	1312

*一般相談：総合失調症、気分障害、認知症、知的障害等いわゆる内因性、気質性障害

心の病相談：上記以外のもので病気とはいえないが、精神的に不安定な状態、不適応状態、ストレスによる悩みなど

3) 相談内容別件数

	老人精神 保健	社会復帰	アルコール	薬物	思春期	心の健康 づくり	うつ状態	その他
相談数 (件数)	7	763	1	1	2	361	101	76
割合 (率)	0.5	58.2	0.1	0.1	0.2	27.5	7.7	5.8

4) 相談対象者性別件数

	男 性	女 性	不 明
相談数 (件数)	524	788	0
割合 (率)	39.9	60.1	0

5) 相談者別件数

	本 人	家 族	その他 (保健所・市町村役場・病院・学校等)
相談数 (件数)	1305	6	1
割合 (率)	99.5	0.5	0.1

6) 処理内容

	助 言	情報提供	カウンセリング
相談数 (件数)	23	26	1263
割合 (率)	1.8	2	96.3

X 子どもの虐待再発予防対策事業

1 親子のこころ相談室

児童虐待の再発及び発生を予防する上で、保護者等にメンタルヘルス上の問題に対する支援が必要な場合や、多くの関係機関による支援が必要な児童及び保護者に対し、家族へのカウンセリングや心理療法等を行った。

平成24年度相談総件数：37 件（実数7人）

XI 精神科救急情報センター窓口運営事業

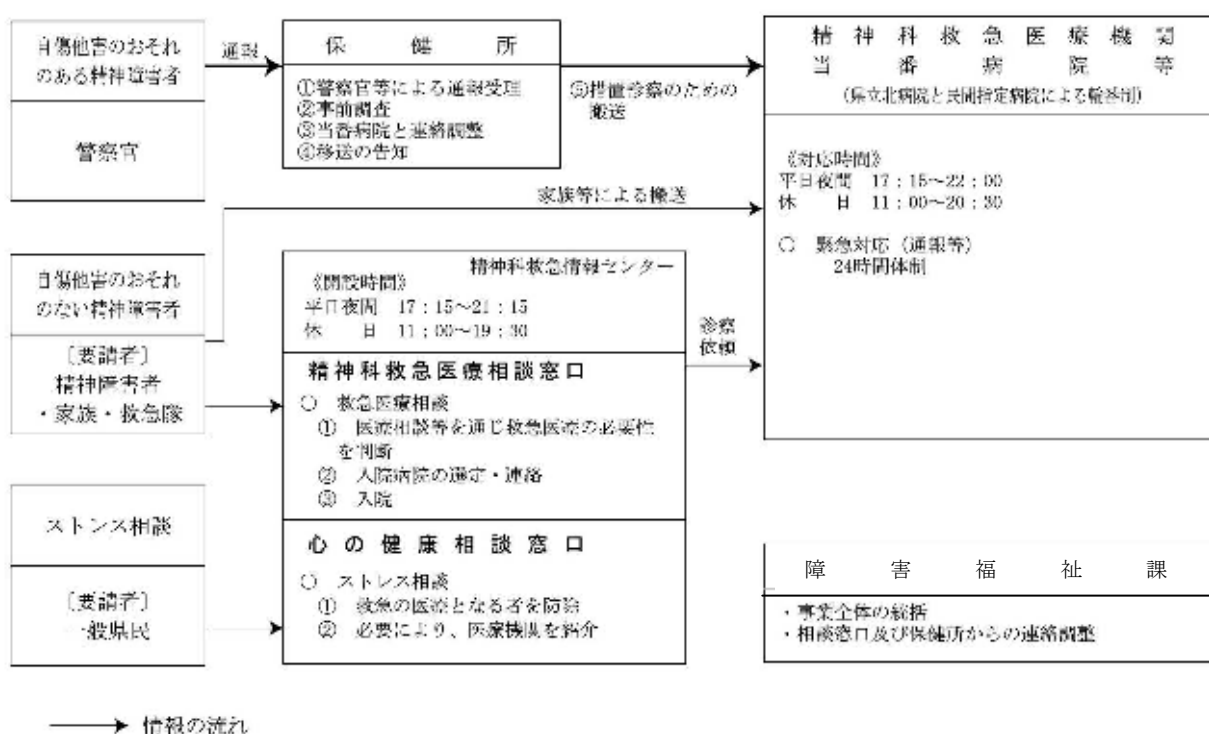
1 概 要

平成10年4月20日から夜間・休日の医療体制を確保する「精神科救急医療システム」を開始した。

この業務は、精神疾患の急激な発症や精神症状の悪化など早急に適切な精神科医療を必要とする者に対して相談に応じ、そのうえで状況によっては医療機関を紹介するとともに、心の健康相談から専門的な医療相談まで併せて実施し、県民の心の健康づくりを推進することを目的としている。

〈精神科救急医療相談の流れ〉

山梨県精神科救急医療事業



2 精神科救急医療体制（精神科救急情報センター）

1) 精神科救急医療相談窓口

内 容 精神疾患の急激な発症、悪化のために、早急に医療が必要な相談

協力病院 県内全域を1つの精神科救急医療圏として実施し、県立北病院及び精神科病院協会加盟の病院の輪番制をとっている。

開設時間 平日夜間 午後5時15分～午後9時15分

土日祝祭日 午前11時～午後7時30分

年末年始祝日も開設（時間帯は休日時間で対応）

電話番号 055-254-3119

2) こころの健康相談窓口

内 容	家庭、職場、学校などでの人間関係やストレスによる様々な悩み、不安、精神疾患等についての相談		
開設時間	平日夜間	午後 4 時30分～午後 9 時15分	
	土日祝祭日	午前11時～午後 7 時30分	
		(正午～午後 1 時、午後 4 時～ 4 時30分は休憩時間)	
		年末年始祝日も開設 (時間帯は休日時間で対応)	
電話番号	0 5 5 - 2 5 4 - 8 7 0 0		

3 実施状況

1) 精神科救急医療窓口職員研修会

(1) 精神科救急医療相談窓口職員研修会

開催年月日	内 容	参加者数
平成24年 4月 5日 (木)	職員研修第 1 回 (困難事例の共有、窓口の対応について)	8人
平成24年10月12日 (金)	職員研修第 2 回 (困難事例の共有、窓口の対応について)	8人

(2) こころの健康相談窓口職員研修会

開催年月日	内 容	参加者数
平成24年 4月20日 (金)	職員研修第1回 (事例検討、情報交換)	6人
平成24年12月26日 (水)	職員研修第2回 (事例検討、情報交換)	6人
平成25年 3月25日 (月)	職員研修第3回 (事例検討、情報交換)	8人

2) 精神科救急医療相談の利用状況について

平成24年度精神科救急医療電話相談実績

() 内 23年度実績

	相談総件数
・精神科救急医療相談	368 (363)
・こころの健康相談	3,093 (2,769)

(1) 平成24年度精神科救急医療相談

① 月別相談件数の状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数		48	33	25	39	29	30	25	22	33	27	24	33	368
性別	男	30	21	16	16	16	16	16	8	12	14	14	13	192
	女	18	12	9	23	13	14	9	14	21	13	10	20	176

② 相談者の区分状況

	本人	家族	医療機関	警察署	救急隊	保健所	その他	計
件数	183	89	17	22	12	26	19	368
比率	49.7%	24.2%	4.6%	6.0%	3.2%	7.1%	5.2%	100.0%

③ 相談対象者の年齢別状況

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明	計
件数	2	9	57	48	105	34	23	29	61	368
比率	0.5%	2.4%	15.5%	13.0%	28.5%	9.2%	6.3%	7.9%	16.7%	100.0%

④ 相談者の居住地管轄保健所別状況

	中北	峡北支所	峡東	峡南	富士・東部	県外	不明	計
件数	198	25	46	10	28	10	51	368
比率	53.8%	6.8%	12.5%	2.7%	7.6%	2.7%	13.9%	100.0%

⑤ 対応状況

	電話相談のみ	当番病院紹介	一般救急紹介	他機関紹介	警察保護依頼指示	他精神科紹介	その他	計
件数	210	94	16	24	2	14	8	368
比率	57.2%	25.5%	4.3%	6.5%	0.5%	3.8%	2.2%	100.0%

⑥ 相談内容

	受診相談	病気の相談(薬等)	社会復帰の相談	社会制度の相談(経済問題等)	ストレス相談	その他	計
件数	222	46	3	0	73	24	368
比率	60.3%	12.5%	0.8%	0.0%	19.9%	6.5%	100.0%

⑦ 診断名の内訳

ICD-10	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	てんかん	その他	不明	受診歴無し	計
件数	7	6	90	71	30	5	6	0	15	4	9	19	73	33	368
比率	1.9%	1.6%	24.5%	19.3%	8.2%	1.4%	1.6%	0.0%	4.1%	1.1%	2.4%	5.1%	19.8%	9.0%	100.0%

⑧ 相談時間状況

・平日夜間

	開始～6時	6時～7時	7時～8時	8時～9時	9時～終了	合計
件数	46	45	47	40	5	183
比率	25.1%	24.6%	25.7%	21.9%	2.7%	100.0%

・休日

	11時～12時	12時～1時	1時～2時	2時～3時	3時～4時	4時～5時	5時～6時	6時～7時	7時～終了	合計
件数	36	21	12	24	23	18	21	18	12	185
比率	19.5%	11.3%	6.4%	13.0%	12.4%	9.8%	11.4%	9.7%	6.5%	100.0%

(2) 平成24年度こころの健康相談

①相談総数（男女別）

全件数	相談対象者性別		
	男	女	不明
3,093	1,280	1,813	0
100.0%	41.4%	58.6%	0.0%

②相談者別 平均通話時間 10.7分

相談者			
本人	家族	その他	不明
2,748	17	3	0
99.2%	0.6%	0.2%	0%

③相談処理内容

処理内容		
助言	情報提供	カウンセリング
8	25	3,059
0.3%	0.8%	98.9%

④相談内容別

	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	思春期	心の健康づくり	うつ・うつ状態	その他
相談数 (件数)	0	2,430	0	0	7	430	223	3
割合 (率)	0.0%	78.6%	0.0%	0.0%	0.2%	13.9%	7.2%	0.1%

	再掲			
	ひきこもり	自殺関連	犯罪被害	発達障害
相談数 (件数)	1	3	0	0
割合 (率)	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%

XII 精神医療審査会

精神医療審査会に関わる事務

精神医療審査会は、精神障害者の医療に関し学識経験を有する者、法律に関し学識経験を有する者及びその他の学識経験を有する者のうち、県知事が任命した者から構成され、次の審査を行っている。

- ①精神病院の管理者から医療保護入院の届け出、措置入院者及び医療保護入院者の定期病状報告があったときに、当該入院中の者についてその入院の必要があるかどうかに関する事。
- ②精神病院に入院中の者又はその保護者等から、退院請求又は処遇改善請求があったときに当該請求にかかる入院中の者について、その入院の必要があるかどうか、又はその処遇が適当であるかどうかに関する事。

平成14年4月1日より、審査会の審査に関する事務の専門性に配慮するとともに、審査の客観性、独立性の一層の確保を図るため、審査会の遂行上必要な事務を精神保健福祉センターで行うこととなった。

平成18年4月1日より、書類の收受及び一部結果通知事務等についても精神保健福祉センターで行うこととなった。

1) 報告書類の審査件数及び結果

(平成24年度)

	定期病状報告書		医療保護入院の 入院届
	措置入院	医療保護入院	
審査件数	15	764	1159
現在の入院形態での入院が適当	15	764	1159
他の入院形態への移行が適当	0	0	0
入院継続不要	0	0	0

2) 退院等の請求

(平成24年度)

退院請求	
受理件数	12
審査件数	11
現在の入院形態での入院が適当	11
他の入院形態への移行が適当	0
入院継続不要	0
取り下げ	1
その他(審査が年度をまたいだ)	0

(平成24年度)

処遇改善請求	
受理件数	0
審査件数	0
適当	0
不適当	0
取り下げ	0

XIII 自立支援医療費（精神通院医療） ・ 精神障害者保健福祉手帳の判定事務

自立支援医療費（精神通院医療）は、在宅精神障害者の医療の確保を容易にするために昭和40年に創設された通院医療費公費負担制度の後、平成18年4月の障害者自立支援法施行によって、従来異なる法の下にあった三障害それぞれへの公費負担制度が統一されることとなった。また、精神障害者保健福祉手帳は、一定の精神障害の状態にあることを証明する手段となることで、手帳交付者に対する各種福祉サービスを受けやすくし、精神障害者の自立と社会参加の促進を図ることを目的に平成7年に創設された。精神疾患を有する者で、長期にわたり日常生活又は社会生活に制約がある者に対して、審査会において等級が判定され、交付される。

これらの支給認定、等級判定の審査会については平成14年より、交付までの一連の業務については、平成19年から当センターにおいて行っている。

	審査件数 (延べ件数・再審査含む)	承認件数
手帳（診断書）	1,937	1,709
手帳（年金証書の写し）	1,290	1,274
手帳と同時申請の 自立支援医療 （精神通院）	1,111	1,014
自立支援医療 （精神通院）	7,481	7,416

自立支援医療（精神通院）受給者証	8,251
精神障害者保健福祉手帳	5,728

※平成25年3月31日現在の所持者数

平成二十四年度

精神保健福祉センター
|
所報

山梨県立精神保健福祉センター
|